

令和3年度 調査研究評価委員会評価結果

令和3年12月14日（火） 午後1時30分から4時 Web開催

○評価委員

氏名	所属	職名等	備考
◎ 飯島 義雄	神戸市健康科学研究所	所長	
井之上 浩一	立命館大学 薬学部	教授	
原田 和生	大阪大学大学院医学系研究科	特任准教授	
平原 嘉親	摂南大学農学部 食品栄養学科	准教授	
三宅 眞実	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科	教授	
和田 崇之	大阪市立大学大学院 生活科学研究科	教授	

◎委員長

(五十音順)

○評価基準

評点	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
1	欠ける	劣る	乏しい	再考すべき
2	低い	やや劣る	十分でない	改善を要する
3	妥当である	標準的である	標準的である	標準的である
4	高い	優れている	標準以上	優れている
5	非常に高い	非常に優れている	優れた成果	非常に優れている

○評価結果（委員コメント・回答は主要なものを抜粋）

課題1				
課題名	衛生動物を介する感染症に関する研究 大阪府におけるダニ媒介感染症対策のために (微生物部 ウイルス課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果(平均)	4.5	3.5	3.8	3.8
委員 コメント	<p>○日本紅斑熱及び重症熱性血小板減少症候群について、発生状況、マダニでの存在状況等を把握することは、公衆衛生上必要性が高いと考えられる。今後は、啓発も兼ねて、各地方衛生研究所と共同し、スクリーニング評価を実施して頂きたい。</p> <p>○抗原検査キットの開発とその応用性を示して頂けると良いと思います。</p> <p>○患者出現地域の環境調査、野生動物調査はコストが高く、難航するところですが、引き続き監視を続けて頂きたい。</p>			
担当者 回答	<p>○他の地方衛生研究所とは学会、研究会等において大阪の状況を発表報告し、情報交換を行っています。今後は共同調査なども実施していきたいと考えています。</p> <p>○早期診断、早期治療につながるよう、臨床現場即時検査法としての迅速診断キットの開発を進めていきたいと思っています。</p> <p>○引き続きダニ媒介感染症に対する監視を行い、府民への啓発を実施します。</p>			

課題 2				
課題名	腸管感染症に関する研究 カンピロバクター食中毒の流行動態解析と飲食店の調理環境における 二次汚染実態解明の試み (微生物部 微生物課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果 (平均)	4.3	3.6	3.7	3.6
委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ○本研究成果は、カンピロバクターの疫学的な基盤情報を得るだけでなく、飲食店に対する衛生管理意識に対する行政指導の材料として利用できるのではないのでしょうか。 ○技術的に難しいことは承知していますが、拭き取り検査材料から培養を経ずに分子疫学的情報を得ることが出来る技術開発に力を入れて頂きたい。 ○細菌性食中毒として最も件数が多いカンピロバクター食中毒について、流行動態を知ることが、食中毒対策を行う上においても重要であり、社会的にもニーズは高いと考えます。 			
担当者 回答	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食店の調理環境における二次汚染対策、すなわち保健所が実施する衛生監視・指導に役立てるため、拭き取り材料からのカンピロバクター遺伝子検出を実施しています。 ○拭き取り材料からの遺伝子検出を実際の食中毒事例（患者分離株等）と絡めて分子疫学的な考察をするという発想を持ち合わせておらず、貴重なご助言をいただき感謝いたします。 			

課題 3				
課題名	食品の安全性、機能性および品質に関する研究 糖類分析法の確立 (衛生化学部 食品化学1課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果 (平均)	3.9	3.3	3.4	3.4
委員 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な成分の中で現時点では糖類のみ、飲料だけを対象とした内容に留まっていることから、今後の拡充が強く求められます。 ○甘味料については、糖類の他、人工甘味料などもあることから、このような成分を一斉に測定できるような手法の開発を期待します。 ○健康志向が高まる中、食品中の糖類に対して注意を払う人は多いと思われることから、これらの分析に焦点をあてた研究は有意義である。 			
担当者 回答	<ul style="list-style-type: none"> ○今後は、除タンパクが必要な食品や脂質を含む食品についても検討を行い、分析対象とするマトリクスへの拡充に努めたいと考えております。 ○糖類と人工甘味料の一斉分析については、主に食品添加物の視点から既に検討を始めているところです。 			

課題 4				
課題名	食品中の残留農薬等に関する研究 中国産農産物中の未知農薬の同定 (衛生化学部 食品化学1課)			
評価項目	研究の必要性	研究の内容	研究の成果	総合評価
結果(平均)	4.3	4.3	3.9	4.2
委員 コメント	<p>○農薬の一斉分析法の開発については、海外での事例をもとに独自のスクリーニング分析法の開発を進めてください。</p> <p>○社会に求められている研究を大安研が実施していることについて、アピールしてほしいと思います。</p> <p>○検出化合物が想定化合物と保持時間が異なることを見逃さず、また構造推定からこれを類推して同定しているなど、食の安全・安心を守る上で非常に緻密かつ丁寧な研究であると思います。</p>			
担当者 回答	<p>○残留農薬の分析について、精密質量を用いたスクリーニング法の開発研究を進めていきたいと考えています。</p> <p>○大安研ホームページにて調査研究に関する情報発信を今後も継続していく予定です。</p>			